

提出 順番	No 3	平成25年 2月28日 午前 午後11時55分 受領
----------	---------	-------------------------------

平成25年2月28日

幕別町議会議長 古川 稔 様

幕別町議会議員 齊藤 喜志雄



## 一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問事項	質問の要旨
<p>1. 学力向上対策と成果について。</p>	<p>文科省は8月8日、全国約1万校の小学校6年と中学校3年の約70万人を対象に4月に実施した全国学力・学習状況調査(通称・全国学力テスト)の結果を公表した。5回目の今回は、従来の国語と算数・数学の2教科に加え、国際学会などで指摘されている「理科離れ」の実態を調べるためとして、新たに「理科」を加え実施された。その結果、小学6年から中学3年にかけて、理科への関心や意欲が低下する「理科離れ」の実態が得点の分析や質問紙調査から裏付けられたとしている。更に、都道府県別の結果については、上位と下位が固定化した状況に変化はなかったが、下位県の成績に改善が見られるとしている。</p> <p>一方、北海道教育委員会は平成24年度の教育行政執行方針のなかで本道の子ども達の「学力」について、平成26年度の「全国学力テスト」までに「全国平均以上」にすることを目標として掲げそのための重点施策を推進するなか、昨年11月26日には4月に実施した「全国学力テスト」の調査結果等を分析し、報告書を公表した。それを見ると各教科の正答率は、小・中学校全10教科中、中学校国語Bで全国平均を上回ったが、他の9教科については全国平均を下回っており、上位県と比べて大幅に低い深刻な状況にあると報告している。</p> <p>また、幕別町教育委員会も11月の「町広報NO730」を通じて、町内児童・生徒の学力を「小学校6年生では、全教科で全道平均を上回り、全国平均との差はわずかとなっている。」ことや「中学3年生も小6年生同様、全道平均以上で、特に国語(活用)、数学(知識)、理科では全国平均を上回っている。」という結果を踏まえて学力向上の兆しが伺えるとコメントしている。</p>

なお、文科省は平成 26 年度の「全国学力・学習状況調査」の実施をこれまでの抽出調査方式と希望利用方式から、07 年スタート時の悉皆調査方式に戻すとしている。子ども達の学力の実態を全国的につかむという目的なら、5%の抽出で十分である。毎年、数十億円という莫大な経費をかけて全員一斉調査をやるというのは、統計学上から言っても余り意味がないものと思われる。

ともあれ、何かと課題の多い「全国学力テスト」を視野に入れた学力向上対策について、次の 3 点から所見をお伺いする。

- (1) この一年間の「学力向上」の取組の事例とその成果について。
- (2) 道教委の「結果報告書の有効活用」の取組について。
- (3) 新年度の学力向上への施策について。

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。